

2020年度第1回 職業実践専門課程  
学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会議事録

- 開催日：2020年12月11日（金） 午前10時30分～12時
- 開催場所：大阪文化服装学院 南館 図書室
- 出席者：糸井委員、植田委員、萩原委員、小林委員、奥田委員、  
岩光委員、河野委員、志貴委員（欠席）、上田委員（欠席）、  
江田委員（欠席）  
(学校教職員の委員名は省略)

議題

- 1) 学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会委員について
  
- 2) 学校関係者評価委員会
  - ◆ 2020年度（2020年4月～2020年11月）の事業報告
  - A) 学校法人の概要
  - B) 事業の概要
    - \* 学校を取り巻く環境
    - \* コロナ禍における学校の対応及び取り組み
    - \* 教育事業の主な取り組み
    - \* 海外戦略等
    - \* 高等教育就学支援の認定、および申請状況
    - \* 就職状況
    - \* 学生募集状況
    - \* 中長期戦略の立案
  
- 3) 教育課程編成委員会
  - A) 2020年度学科別企業連携授業の報告
  - B) 教育課程の編成
  - C) 成績評価の基準
  - D) 資格検定等

## 議事録

理事長：挨拶。新任委員3名の紹介。

マツオインターナショナル株式会社の小林様、泉尾工業高校の奥田先生、スーパーデザイナー学科4年生保護者の上田様（欠席）。

ZOOMで会議初参加のあいざわ（河野）様の紹介。

本会議の議長として糸井様を推薦。承認。

糸井：学校関係者評価委員会を行い、続いて教育課程編成委員会を行います。理事長から2020年度の報告を致します。

理事長：資料に沿って説明。

### 資料2

学校法人の概要について説明。STM学科は昨年で募集を停止し2020年度で終了。学生数は直近3年では順調に増えています。

### 資料3

#### 【事業の概要の説明】

新型コロナウイルスの影響であらゆるスケジュールが変更となりましたが、オンライン授業や夏季休暇等を大幅に縮小し既定の授業時数を実施します。

また、2020年度入学者及び2021年度以降の入学者に対し、PC端末（Google Chromebook）を支給し、ICTを活用した教育環境の整備を進める事としました。

入学広報も新たにWEBによるオープンキャンパスを立上げ、ZOOMによるオンライン個別相談会を実施しました。

学生支援としては、オンライン授業整備のための緊急奨学助成金として在校生全員に一律3万円を支給しました。

また後期授業料の期限を2カ月延期し、提携教育ローンの利息を学院が全額負担しました。給付型の奨学金採用枠も臨時採用枠として拡大しました。

#### 【教育事業の主な取り組みの説明】

高等教育就学支援の申請状況について大橋から説明します。

大橋：今年度から給付型の奨学金が始まり、世帯所得490万円以下の学生103名に対して総額5300万円を支給しました。

また新型コロナウイルスの影響でアルバイトが出来なくなり、収入が無くなった学生55人に対し、緊急援金として総額730万円、合計約6000万円の給付がありました。

この結果、今まで経済的事情で入学できなかった学生が入学可能となりました。

就職状況としては、3月17日に1社説明会がありましたが、それ以降はありません。

求人票は91社で昨年の6掛けとなっています。

企業もコロナで採用を大幅に絞っていますが、希望としては企業に採用意欲はありません。

就職セミナーが来年度からは増えつつあり、8掛けくらいまでは回復しそうな見込みです。

理事長：学生募集状況ですが、個別対応に軸足を切り替え、新たにWebによるオープンキャンパスやZoomによるオンライン個別説明会を実施しました。

2019年10月から始まった中長期計画策定プロジェクトを来年度から実施します。

#### 資料4

##### 【まとめ】

糸井：続きまして、教育課程編成委員会を開催します。

理事長：重複する部分もありますが、学科別企業連携授業の報告を資料5で説明。

#### 資料6

中長期計画にて各系統の育成したい人材像を設定し、カリキュラムの開発を目指します。

成績評価の基準、検定の報告。

糸井：ありがとうございました。感想も含めて質問等ございませんか。

オンラインの方もどうぞ。

ちなみに私の感想ですが、前半出来なかった授業の遅れはありますか。

またオンライン授業に対する学生の反応はどうか。

理事長：夏季休暇等の短縮したことにより授業の遅れはありません。  
学生のオンライン授業に対する反応は、比較的スムーズでした。  
ただし服飾専門学校の特徴で実技・演習は対面授業にて進めています。  
今年の場合は文科省から出欠に関して、体調不良は公欠と認められたので、学生にとっては続けやすい環境であったのではないかと思います。

小林：コロナの影響下のオンライン授業についてですが、服飾専門学校であるにも関わらず素材に手を触れられない環境を学生はどうとらえていますか。

理事長：6月からいわゆる座学はオンラインにしましたが、実習（縫製、パターン、ドローイング）は教室の定員を約2分の1に減らし、学生ホールも教室として使用ながら対面授業を行っています。

小林：ICTの導入で、個人差はありますか。

理事長：Chromebookは、学校向けの仕様のため全員が同条件でスタートしていますので大きな個人差は出ていません。

加藤：ICTに関して学生はデジタルネイティブと呼ばれる世代であり比較的スムーズに受け入れています。

小林：新しい取り組みが良いですね。

理事長：コロナによってこうした取り組みが加速した感があります。

糸井：他ありませんか。

植田：例年とは違う環境の中で、財政面での状況はいかがですか。

会長：在校生が今年が多いのでそれに伴い、収入も増加しました。

増加分に関しては今年度は特に設備投資に使うように進めています。

設備投資により、広告宣伝費を従来のガイダンスではなく個別オンライン相談会にシフトして経費を下げること、オンライン授業を増やすことによって非常勤の講師料を下げること、などです。

そして来年度からは3DCADを取入れITに強い学校を売りにしたいと思います。

植田：学生数が増えた要因は何でしょうか。

会長：理由は分かりませんが、2020年度は全国的にファッション系を志望する学生が増えました。

それに伴い、当校も昨年、今年と学生数が増えました。

今までの海外戦略が認められたのか、または学生に対して手厚い学校だと認められたのか、そのあたりも要因ではないかと思います。

植田：そうですね。よく分かりました。

糸井：他に何かありませんか。ところで学内のコロナ感染者の状況はいかがですか。

理事長：HPにも載せていますが、7月から8月にかけて6人。11月後半に1人。合計7人の感染者が出ました。

糸井：対応は。

理事長：大阪府保健所のマニュアルに従い当校のマニュアルを作成しています。

感染者および濃厚接触者は基本2週間の出席停止措置としています。

授業につきましては校内の除菌を行ったうえで再開するというルールで対応しています。

また現在まで教職員の感染者はありません。

あいざわ：濃厚接触者の定義は？ 授業が一緒だとどうなるのですか。

理事長：1m以内の距離で、15分以上、マスクなしで接触した場合が濃厚接触者の定義となっています。

保健所が感染者に対して聞き取りを行います。

その結果に基づいて保健所から本人宛に連絡が来るので、その時点で濃厚接触者が確定するという手順です。

あいざわ：学内で感染は？

理事長：幸いクラスターは発生していません。

あいざわ：今後の授業の参考になりました。

理事長：手洗い、換気、マスクを着用し、3密の回避を守ることが基本であると思います。。

あいざわ：次年度のオンライン授業の予定は？

理事長：全体の30%をオンライン授業したいという目標です。

実習、演習は対面授業が必要ですが、座学は極力オンラインで行いたいと思います。

あいざわ：コロナ終息後は？

理事長：全体的な教室不足もあり、オンラインは引き続き継続します。

また登校することが困難な学生の為にも、オンライン授業は活用できると考えます。

あいざわ：ありがとうございます。

スタイリングMAPをEラーニングで作っていますのでお役に立てればと思います。

糸井：昨年の会議で、理由の分からない退学者がいるとの事でしたが、今年はいかがですか？

理事長：それなりにいます。

会長：原因は分からないが今年の退学者は大幅に減りました。

授業開始が2カ月遅れたことにより、学生同士のストレスが減ったからかもしれないです。

糸井：逆にですか。

理事長：今年度は体調が悪い場合は公欠扱いとすることが認められており、オンラインの対応もできることから、無理して登校することが減ったのではないかと思います。

糸井：他には。

理事長：奥田先生、高校はどうですか。

奥田：工業高校なので実習はありますが、分散出校させています。

40人定員でファッション工学科では女子が多く配慮をしながら授業は進めています。

コロナ感染者はまだ発生していません

。

小林：30年繊維業界におりますが、この歴史に残るコロナ禍で、今後この変化をいかにして学生に伝えるかが課題と思います。

そして学生の皆さんには絶望せず興味を持ち続けてほしいです。

良かった話が少なく、大きき変化する社会情勢の中で興味を持ち続けるカリキュラムが欲しい。

これは私の希望でもあり、要望でもあります。

岩光：オンライン授業が増えて退学者が減ったという事ですが、カリキュラムにはついて行けてますか？

理事長：現在進行しているカリキュラムはコロナ前に策定したもので基本変わっていません。

授業開始は2カ月遅れたましたが、今のところ予定の時数はこなしています。

卒業制作も先生方が工夫を凝らし進めています。

大橋：小林さんのお話ですが、今年の学生は100年に1度の経験で、この変化にどう対応するかがいま問われています。

今のアパレルの状況は決して良いとは言えません。

昨年22社のインターンシップ先が今年は15社に減っています。

来年の当て込みはしましたが、現在第3波も到来しており、今後何が起こるか分からない状況です。

自分の実績を積んで生き残っていく事が大切です。

インターンシップに参加して経験し、そして生き残っていく力を身につけてほしいと思います。

あいざわさん、植田さん、萩原さん、宜しくお願いします。

糸井：時間になりましたが、萩原さん何かありますか。

萩原：アーバンリサーチ主催のGREEN DOWN PRODUCT DESIGN COMPETITIONで最優秀賞を受賞された永岡さんの話ですが、企画担当者が「作りたい物、作る意気込み」の原点を見たと感動していました。  
本人はコロナ禍での就職の事を聞くつもりでしたが、これをきっかけに環境問題について考えるようになり、意識が変わったと答えられていました。  
好きな物、事に参加して社会に生き残れる人材が育ってきていると思います。

理事長：アーバンリサーチ様はアパレルの中でも特にSDGsに前向きに取り組まれており、今後当校としてもいろいろご教示いただけます様お願いします。

糸井：ありがとうございました。

理事長：長時間ありがとうございました。  
今回いただきましたご意見を今後の学校運営にぜひとも役立てていきたいと思えます。  
今後とも宜しくお願い致します。